

牛久：学校周辺に見る自然

第2号 ひたち野西近隣公園

2014年4月9日発行

＜ 春がかけ足で ～みずべ公園にも…＞

皆さんおなじみの、みずべ公園にも春がかけぬけていきます。



満開のコブシ(左上)、ヒイラギナンテン(右上)、オオカンザクラ(左下)とその一枝(右下)。

木々の花が、にぎやかになってきました。濃いピンクのオオカンザクラ。まっ白な大きな花が目だつコブシ、黄色いかわいい花をたくさんつけるヒイラギナンテン。色も形も大きさも、それぞれできれいですね。

ざっ草の花も次々と咲きだし、オオイヌノフグリでは、ホソヒラタアブが花粉を食べていました。



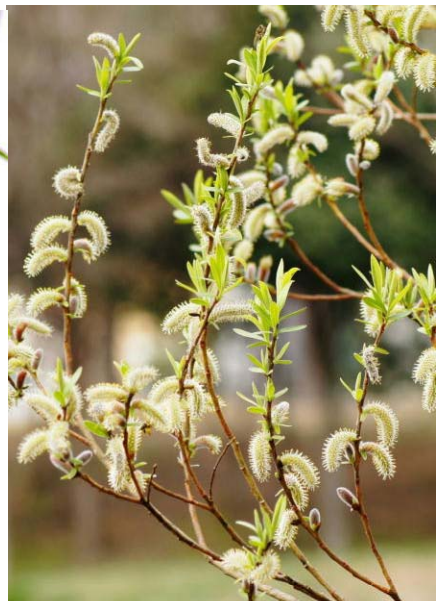
青が美しいオオイヌノフグリ(左)と、その雄しべにぶら下がり、花粉をなめとるホソヒラタアブ(右)。



一面に咲くとお花畑のようなホトケノザ(左上)、次々と咲いてもうタネを飛ばしているノボロギク(右上)、まだ咲き始めで小さいタチツボスミレ(左中)、目だたない花のスズメノヤリ(右下)、しめった土地にみられるタネツケバナ(左下)。

セイタカアワダチソウやホトケノザ、ヒメオドリコソウなどは一面に咲いてお花畑のようです。その中にぽつりぽつりとノボロギクやタネツケバナも咲いています。ノボロギクは黄色い花を咲かせながら、もうタネを飛ばしています。

木々の芽吹きも始まりました。シダレヤナギやカワヤナギの淡い黄緑が、青空にはえて美しいです。よく見ると、花も咲いていて、ミツバチやハナアブがみつを吸いに来ています。



花が咲き、葉も開き始めたシダレヤナギ(左上・中)とカワヤナギ(左下・右)。



成虫で冬をこしたキタテハ(左)と、さなぎで冬をこしたルリシジミ(右)。

チョウも飛びはじめました。早春に飛んでいるチョウは、冬の間はどうしていたのでしょうか？写真のキタテハは成虫で、ルリシジミはさなぎで冬をこします。種類によって卵で冬をこすものも、幼虫で冬をこすものもいます。興味があれば、図書館の本などで調べてみましょう。



冬には木の名ふだの裏でかたまっていたヨコヅナサシガメ(左)も、表に出てきた(右)。



おなじみのヨコヅナサシガメは、冬には幹のくぼみや名ふだの裏などで幼虫がかたまっていたが、春になって表に出てきました。ヘラクヌギカメムシは幹に卵が産みつけられていましたが、春になってふ化しました。クリオオアブラムシもふ化しアリが集まっていた。

卵で冬をこしたヘラクヌギカメムシ(左)は、春にふ化した(中)。クリオオアブラムシもふ化し、アリが集まる(右)。



池の中にヘビのように長いひもが(左)。そばで見ると、ヒキガエルの卵だった(右)。

【理科支援員：宮内】